

一からわかる再配置



公共施設の再配置に関連する基本的な情報をお知らせします。

何とか確保

来週から平成30年度予算の審議が始まります。厳しい財政状況の下、難しい予算編成であったとは思いますが、「何とか予算を確保することができた」と、ほっと胸をなでおろしている職員も多いのではないのでしょうか。

でも、「何とか確保」できたその予算、財源のことを考えたことがありますか。補助金や起債（建設債）、使用料などの特定財源を充てたもの以外は、ひとくくりに一般財源と呼ばれていますが、財政課の査定の結果充てられたその一般財源に対して、予算要求をした職員は、あまり興味を持たないかもしれません。でも、その中には、次の世代、すなわち子ども達が確実に負担することになるお金が含まれています。今回は、そのことに触れておきたいと思います。

胸を張る

経常収支比率という言葉をご存知でしょうか。経常一般財源¹に占める経常経費²に充てた一般財源の総額の割合を表します。すなわち、この割合が高くなればなるほど、特定財源以外を使った独自の政策ができにくくなります。家計に置きかえれば、毎月の給料だけでは、食費や光熱水費、家のローンや子どもの学費など以外に使えるお金がないといったところでしょうか。

では、秦野市はどうでしょうか。平成28年度の決算資料を見ると、秦野市の経常収支比率は99.0%です。しかし、右表のとおり、経常一般財源としての収入は約271億円で、支出した経常経費に充てた一般財源は約287億円となっています。これでは

経常一般財源		経常経費に充てた一般財源	
収入の区分	金額(千円)	経常経費の区分	金額(千円)
地方税	21,530,645	人件費	8,576,098
交付金等	3,391,848	扶助費	4,064,279
地方交付税	2,071,357	公債費	3,437,677
使用料	119,206	物件費	4,943,273
財産収入	35,976	維持補修費	294,533
諸収入	13	補助費等	4,115,831
臨時財政対策債	(1,824,000)	繰出金	3,245,735
計	27,149,045 (28,973,045)	計	28,677,426

経常収支比率は100%を超えてしまうことになりませんが、なぜ99.0%なのでしょう。実は、現在、経常一般財源として計算できる収入の中には、臨時財政対策債（以下「臨財債」といいます。）というものが含まれています。

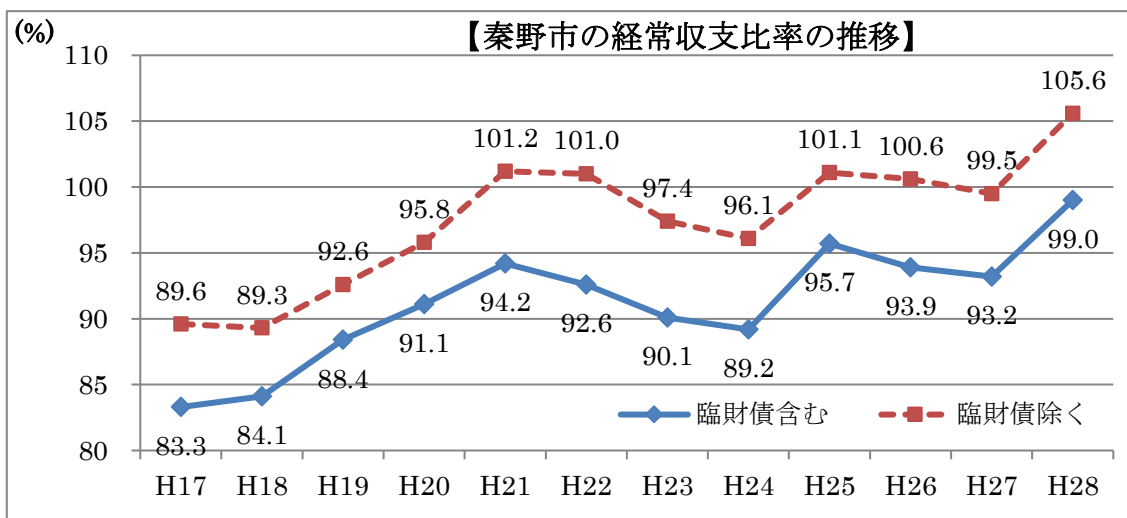
¹ 税や交付金などの毎年決まって入ってくる収入

² 人件費や借金の返済、福祉関連経費など、毎年決まって支払わなければならない経費

この臨財債とは、国が各自治体に交付する地方交付税の財源が不足した場合に、その穴埋めとして、地方債の発行を認めるという仕組みです。経常一般財源である地方交付税に代わって得ることが認められる収入なので、計算に含めることができます。平成 28 年度決算では、この臨財債の発行額は、約 18.2 億円です。これを加えると、経常一般財源は、約 290 億円、経常収支比率は 99.0%となり、何とか必要経費を賄えたということになります。

また、この臨財債の償還金は、償還年度に国が地方交付税として措置してくれます。だから何の心配も要らないとっていいのでしょうか。地方交付税の財源は、所得税・法人税の 33.1%、酒税の 50%、消費税の 22.3%、地方法人税の全額です。後年度に国が交付税措置するということは、後年度の国民の税金が充てられるということです。さらには、臨財債の償還は、元金を 3 年据え置いた後、20 年分割で行われます。つまり、確実に次世代、子どもたちが負担することになるのです。

下のグラフをご覧ください。臨財債を経常一般財源から除いた場合、経常収支比率は 105.6%になり、5 回目の 100%超え、そして過去最高となりました。臨財債の発行がなければ、毎年確実に必要となる経費すら払えない、すなわち、子どもたちに負担してもらわないと、現在並みの行政サービスは維持できないというのが本市の現状です。



さて、皆さんが何とか確保できたその予算、財源は何ですか？

もちろん、一般財源に充てることができる収入には、基金の取り崩しというものもあります。しかし、平成 30 年度予算をみると、基金からの繰入金金は 8.5 億円、臨財債の発行額は、その倍以上となる 18.6 億円です。経常経費以外の経費に充てられている一般財源の多くは、子どもたちが負担してくれると思っています。当課にも、一般財源を充てる経常経費とはならない新規事業があります。これを実現させてくれるのは臨財債です。したがって、この仕事は、子どもたちにも胸を張れるものにしなければいけないと思っています。

「そのくらいのお金、何とかやるよ」なんて軽い気持ちで予算要求をしたような職員は、もちろんいないとは思いますが、今後、もし、そんなことを口にする昭和の匂いがする職員がいたら、ぶっ飛ばしちゃってください。

